



版画 Fan

Vol.55

2017年 秋冬号

明治維新から150年 浮世絵にみる 子どもたちの文明開化

2017年10月7日(土)～11月23日(木・祝)

観覧料：一般=800(600)円、大・高生、

65歳以上=400(300)円、中学生以下は無料

※()内は20名以上の団体料金。

※10月7日(展覧会初日)と11月3日(文化の日)は入場無料



楊洲周延 「初春少女之戯」
明治24年(1891) 大判錦絵三枚続 町田市立国際版画美術館蔵

2018年は、日本が近代国家へ歩み始めた明治維新から、ちょうど150年を迎える節目の年にあたります。江戸から明治へ、社会そのものが大きく変化する中で興った文明開化がもたらしたものは何だったのでしょうか。本展は、明治の子ども浮世絵を通してそれらをあらためて検証しようとするものです。

文明開化とともに洋装や鉄道など新しい文化が花開くと、子どもをとりまく環境も変わってゆきました。教育の場では新たに「学校」が生まれ、教室の中で椅子に腰掛けて授業を受ける子どもたちの姿が多く浮世絵に描かれています。明治5年に公布された「学制」には、当時の小学校である下等小学における学習教科として、江戸時代の寺子屋では習わなかつたような自然科学系の科目や体操、唱歌といった教育内容が記されています。こうした新しい学習を助けるために活躍したのもまた、浮世絵でした。色鮮やかなイラスト入りの浮世絵、いわゆる教育錦絵や掛図が、学校あるいは家庭で学習教材として役割を果たしました。まだこの時代、男子と女子とでは学習科目に違いがありましたが、従来の身分や階層、そして性別に関わらず教育を受ける場が用意されるというこの変革を、浮世絵はじめ出版界が下支えしていたことがわかります。

こうして近代化が進められていく一方で、都市の裏通りや人びとの心の中には江戸への郷愁も色濃く残っていたようです。楊洲周延や宮川春汀、山本昇雲ら人気絵師たちの浮世絵には、元気いっぱい遊ぶ子どもたちの姿がみずみずしく描かれ、江戸で開花した遊びの文化が脈々と続いていることを教えてくれます。また彼らの浮世絵は、明治20年代以降にさかんになった「江戸懐古」の風潮をも映し出し、文明開化の雰囲気を排したノスタルジックな子ども絵が描かれます。江戸時代から続くカラフルなおもちゃ絵や双六も引き続きつくられ、子どもたち的好奇心を刺激しました。明治という改革期においても、ありのままの子どもを描いた浮世絵、あるいは子どものための浮世絵が変わらず数多くつくられたことに、子どもの成長を見守る大人たちの普遍的なまなざしが感じられます。

本展では、文明開化の新風と江戸の面影のはざまで、遊び、学ぶ子どもたちの姿を、当時の絵画と資料約250点で見つめなおすします。

(学芸員 村瀬可奈)

企画展

紙の上のいきものたち!!

2017年7月29日(土)～9月24日(日)

※「インプリントまちだ展2017」と合わせてご覧いただけます。
観覧料 一般600(500)円／大学・高校生・65歳以上300(200)円
()内は20名以上の団体料金。展覧会初日7月29日(土)は入場無料

古くから人間は動物や植物、昆虫などのいきものを版画であらわしてきました。紙の上で新たな命を与えられたこれらの生きとし生けるものは、人間を映し出す鏡といえるかもしれません。たとえば写実的に描かれた植物からは、科学的な考え方やまなざしが芽生えたことがうかがえます。また動物の姿を借りた寓話は、人間の愚かさや滑稽さを教えてくれるものです。一方で、現代の版画家たちが魅力あふれる生命を表現しつづけていることも忘れてはならないでしょう。

本展では身近なものから遠い異国のものまで、多種多様ないきものが息づく約120点を展示。植物から作られた町田産の色材を用いた若手作家の版画も紹介します。いきものの様々なすがた・かたちをつうじて、自然がもたらす楽しみと恵みをご堪能ください。また期間中のイベントとして、恒例のギャラリートークやプロムナードコンサートの他に、小学生を対象としたバックヤードツアー（事前申込制、保護者同伴可）を予定しています。

(学芸員 藤村拓也)



ヴェンツエル・ホラー 「猫の頭部」
1646年 エッチング 180×133mm
町田市立国際版画美術館蔵

企画展

インプリントまちだ展2017

～絵書き・ながさわたかひろ、
サッカー・FC町田ゼルビアでブレイク刷ルー！～

2017年7月29日(土)～9月24日(日)

応援したい人や憧れの人を前にしても、一方通行の思いは相手に届きにくいものです。ながさわたかひろは、気持ちを伝えたい対象を絵や版画で描き、作品を直接見てもらうという作家活動をしています。モデルから叱咤激励のメッセージを貰い、作品を受け取ってもらえたならば、それは絵の力で人と繋がった証です。

展覧会では学生時代から現在の活動に至るまでの軌跡を追い、憧れの有名人に突撃取材して描いた『に・褒められたくて』シリーズ、応援するプロ野球チームのシーズン全試合を描いた『プロ野球画報』を紹介。誰もが知っていてもアートの文脈では描かれにくい存在を、まっすぐすぎる気持ちで捉えた作品200点以上がずらりと並びます。

さらに「絵は声援に、応援は力になる。」ことを信じ、チームの「戦力」となるため、プロサッカークラブ「FC町田ゼルビア」の2017年シーズンの試合を、愛を込めて描く新作を発表します。

(学芸員 町村悠香)



《FC町田ゼルビアを描く！ vs ロアッソ熊本：J2 第11節》2017年、ペン・色鉛筆

版画の彩典2017 第42回全国大学版画展
12月2日(土)～12月17日(日)

入場
無料

第31回 町田市公立小中学校作品展
2018年1月12日(金)～2月18日(日)

- ①中学校美術作品展 1/12(金)～1/21(日)
- ②小学校图画工作展 1/26(金)～2/4(日)
- ③小学校書写展 2/9(金)～2/18(日)

*関連展示「中学校美術・収蔵作品展」1/12(金)～1/21(日)

Present for You - 新収蔵作品展
2018年1月5日(金)～2月18日(日)

友の会だより

町田市立国際版画美術館友の会 第20回定期総会報告

4月22日(土)13時30分より第20回定期総会が版画美術館講堂にて開催されました。

すべての議案は可決、承認されました。審議終了後、「企画展 ミニ・レクチャー」、「10年継続会員」紹介、記念品の贈与、そして恒例のティーパーティーに移り、和やかな歓談のうちに閉会しました。

なお、10年継続会員の方々は次の13名です。

園部芳徳(賛助会員)、臼杵眞瑜美、内田三枝、大久保詠味子、小澤史雄、黒田奈生子、小金井有三、重南昌男、竹之上正隆、丸山昌吾、八田部節子、渡辺宏明、劍持 正(敬称略)

今回から友の会記念品に加えて、村田哲朗館長より感謝状が贈られました。

今回のレクチャーは4/22より開始の企画展「横尾忠則 HANGA JUNGLE展」でした。

滝沢学芸員のスライドを用いた解説に参加者は熱心に聞き入っていました。

美術館バス見学会 菱川師宣記念館・市原湖畔美術館

2017/6/7実施

今回で21回目のバス見学会が実施されました。担当の方々のご尽力により、個人では行きづらい美術館2ヶ所を見学しました。

町田出発7:20。アクアライン経由で菱川師宣記念館9:50頃到着し、参加者26名で記念撮影しました。館内作品鑑賞及びビデオを見学し、代表作「見返り美人図」の美しさと鮮やかな緋色の元禄小袖をまとった美人画に見とれ、ほれぼれしました。他に「吉原恋の道引・行楽美人図」等多数見学しました。11:00に同記念館を出発しバスで市原湖畔美術館に12:00到着しました。

2013年に前身の「市原市水と彫刻の丘」をリノベーションしたモダンなデザインの美術館です。まず記念撮影し、2班に分かれて館内見学と食事をしました。3種のピザがおいしかったです。13:30からギャラリートークがありました。フリータイムに湖畔の野外アート鑑賞と散策、コーヒータイムを十分とりのんびりし、自然の美しさを私なりに満喫し、町田に18:00前に到着しました。



友の会広報部 大竹孝光

私の一枚 レイモン・ペイネ「春の訪れ」リトグラフ

絵に関する知識も何も持ち合っていない私だが、若い頃からジャンルをとわず絵を見るのは大好きでただ鑑賞するだけだがよく美術館へ足を運んでいた。海外旅行でも必ず行程に入っていた。なぜかここに豊かさを感じほっとする。

20年前から我が家リビングの壁に大きな一枚の額がかかっている。狭い部屋なのでソファーに座るといつも目の前でんとある。飽きもせずに当然のように目に入ってくる。娘夫婦からの贈り物である。

軽井沢に行くたびになぜか軽井沢タリアセン内のペイネ美術館を訪れている。園内をのんびり散歩しペイネの絵を見る。原画やリトグラフ、写真、ポスター等など。「恋人たち」の作品群がとても愛らしくほのぼのとした気分にさせてくれる。娘たちも一緒にファンになったしばし軽井沢でのひとときを楽しんできた。二年前の友の会バス見学会でも会員の皆さんと一緒でした。

額の中の絵はフランス人画家(イラストレーター)レイモン・ペイネ(1908~1999年)の作品、題名は「春の訪れ」リトグラフである。

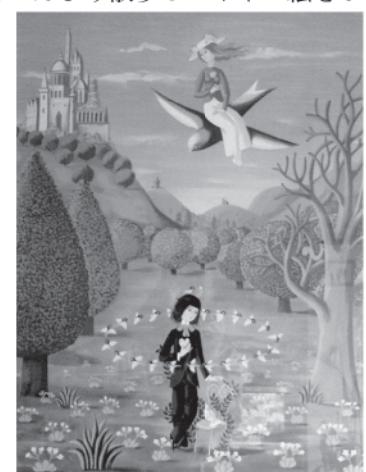
ペイネの描く作品には多くの詩的な要素が盛り込まれている。ペイネが生涯を通じてメルヘン調のタッチで描き続けた恋人たちの愛の姿や平和の大切さをみることができる。

この絵の下のほうにフランス語の言葉が添えられている。

... 庭一面にさくら草が咲き シジュウカラは春を待つ少年に輪になってまとわりつく... とでも読むのでしょうか。

絵を見ているとそんな情景が伝わってくる。

友の会会員 土屋勝子



友の会だより

第19回「ゆうゆう版画美術館まつり」開催

2017年10/7(土)・8(日)(版画美術館・友の会共催)

催事内容(予定)

- ★チャリティ・アートバザール2017 ★木版摺り体験
- ★市域大学生アートイベント ★デザイン原画展&表彰式
- ★学芸員による企画展スライドトーク ★キッズ・アートスペース
- ★ゆうゆうプロムナードコンサート ★飲食・物品コーナーなど

「ゆうゆう版画美術館まつり」は、町田市立国際版画美術館を拠点に町田市内外に“美術を愛する人々の交流の輪”を拓げることを目的として行う、アートなイベント。本年もキャッチフレーズ「版画でひろがるアートの町田」をもとに多彩なイベントが繰り広げられます。会員皆様のご協力と、多数のご来場をお待ちしております。

第18回会員展報告



2017/3/14～3/20開催

恒例の会員展が本年も開催されました。出展者59名 出品数107点(アートスクール講師作品を含む)。会期中天候にも恵まれ1054人の来場者で賑わいました。今年もアンケート回収に力を注いだ結果、おかげさまで157部の来場者の声を集めることができました。レベルの高さ、上達ぶり、雰囲気の良さ、など「素晴らしい」「参考になった」との高評価コメントも多くありました。皆様のご感想やご意見をもとに、満足していただける会員展につなげる所存です。2018年は3月13日～18日開催予定。

会員展実行委員会一同

友の会会員募集中!

《会の目的》・版画美術館の事業活動支援・会員の教養、親睦を深める・美術、文化および地域文化の向上
《主な特典》美術館企画展がすべて無料で観覧、友の会主催行事に参加できます♪

《年会費》一般会員3000円(入会年5000円)・ファミリー会員2000円(入会年3000円)・学生会員2000円(入会年も同じ)・賛助会員1口10000円(法人・個人不問・口数任意・各種特典あり)

※申し込みは友の会事務局へ

各種講座・サークル予定

■やさしい水彩画講座(全3回)

9/13・10/20・11/17

■銅版画講座(全6回)

12/9～1/27

■美術館めぐり

2017/11/9

「早稲田大学 會津八一記念博物館」
「センチュリーミュージアム」

■友の会会員のサークル活動

△木版画倶楽部 8月～'18年1月予定

- ①カレンダー作成 11月完成予定
- ②美術館まつりにおける摺り体験指導実施
(版数4～5版)
- ③会員展用作品作り及び会員展準備
- ④木版画倶楽部総会(美術館まつり終了後)
- ⑤夏季作業計画検討(8月、暑気払い)

△弥次喜多倶楽部

2017/11/22(水)近隣の美術館巡り

「郷さぐら美術館」「目黒区美術館」

事務局だより

○2017年4/21 内覧会支援

「横尾忠則HANGAJUNGLE」展

○4/22 第20回定期総会

○6/6 第1回理事会

(兼第1回ゆうゆう版画美術館まつり運営委員会)

○8/9 まつりデザイン審査委員会

○9/1 第2回ゆうゆう版画美術館まつり運営委員会

○10/5 内覧会支援

「浮世絵に見る 子どもたちの文明開化」展

○2018年3/13～3/18 第19回会員展

2017年度友の会事務局スタッフ

事務局長 小林文子 事務局次長 滝沢富夫

総務部長 白杵真瑜美 副部長 加藤歌子

事業部長 荒井良一 副部長 尾作信子・大久保知明

広報部長 武藤充 会計 土屋勝子・古田京子

編集後記：世の中いろいろあるのは知ってはいるものの、いざ自分で体験をするとなると、何事も大変な思いをするもの。勉強ですね。(mm)